

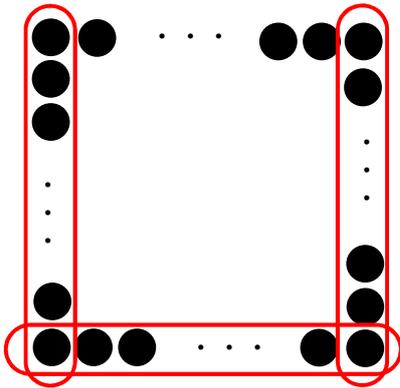
## 中学校第1学年用「Sイチ」

<b>Sサポート「チャレンジ問題⑤」</b>	学年等	年 組 番
<b>Today's Question (今日の1問)</b>	名 前	

次の図のように、三角コーンを正方形の形に並べます。(1辺に並んだ三角コーンの個数は2個以上とします。)

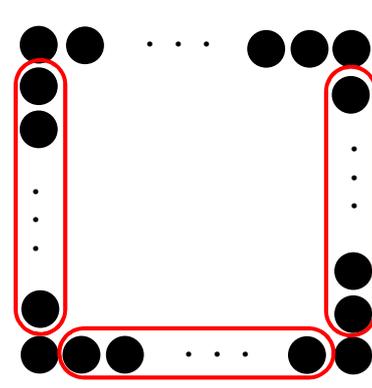
ゆりのさんと、れんとさんは1辺に並べた三角コーンが  $x$  個であるときの三角コーンの総数について次のように考え、 $x$  の式で表しました。

【ゆりのさんの考え方】



端が重なるように囲んでから、端の分を引いて考える。  
式： $4x - 4$

【れんとさんの考え方】



端以外の部分の数を求めてから、端の4つ分を加える。  
式： $4(x - 2) + 4$

だいちは、二人の式を見て、「二人の式は形が異なるけど、式を計算することで三角コーンの総数は同じになることがわかるよ」と言いました。

だいちさんがこのように発言した理由について、ゆりのさんとれんとさんの式を使って、説明の続きを書きましょう。

れんとさんの式を計算すると、

## 答え（例）

れんとさんの式を計算すると、

$$\begin{aligned}4(x-2) + 4 &= 4x - 8 + 4 \\ &= 4x - 4\end{aligned}$$

ゆりのさんの式と同じ形になるので、二つの式は両方とも三角コーンの総数を表していることが分かるから。

※ れんとさんの式を計算してゆりのさんの式になることを記述していれば正解

間ちがっていたら、どこで、何を間ちがえたのか確認し、もう一回、答えを見ないでやってみよう。

